

Economic Indicators

発表日: 2021年7月9日(金)

主要経済指標予定(2021年7月12日~7月16日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

(7月12日~7月16日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
7月12日 (月)	8:50 6月企業物価指数 (前月比) (前年比)	+0.8% +5.1%	+0.6% +4.8%	+0.1%~+3.2% +3.4%~+5.1%	+0.7% +4.9%
	8:50 5月機械受注統計 船電除く民需 (前月比) (前年比)	+3.4% +6.3%	+2.5% +6.6%	▲2.3%~+6.4% +0.3%~+14.4%	+0.6% +6.5%
	7月13日 (火)				
	7月14日 (水)	8:00 7月ロイター短観 製造業DI 非製造業DI	— —	— —	— —
7月15日 (木)	13:30 5月鉱工業指数・確報 鉱工業生産指数 (前月比) (前年比)	— —	— —	— —	▲5.9% +22.0%
	稼働率指数 (前月比) 生産能力指数 (前年比)	— —	— —	— —	+1.1% ▲0.9%
	13:30 5月第3次産業活動指数 (前月比) (前年比)	▲1.2% +12.2%	▲0.9% —	▲1.4%~+0.5% —	▲0.7% +9.9%
	13:30 5月商業動態統計・確報 小売業販売額 (前年比) 金融政策決定会合 (~16日)	—	—	—	+8.2%
7月16日 (金)	日銀総裁定例記者会見 7月日銀展望レポート				

6月企業物価指数・国内企業物価 当社予想：前年比+5.1% 中央値：同+4.8%

6月の国内企業物価を前月比+0.8%、前年比+5.1%と予想する。既往の原油価格の上昇により電気・都市ガス・水道がプラスに寄与するほか、世界経済の回復を受けて国際商品市況が高値を付けている鋼鉄や木材・木製品を中心に前月比で上昇が続くだろう。また、昨年同時期の落ち込みの裏が出ることもあり、前年比でも+5%を超える見込み。7月以降も4%台の高い伸びが続くだろう。

(副主任エコノミスト：大柴 千智)

5月機械受注・船舶電力除く民需 当社予想：前月比+3.4% 中央値：同+2.5%

5月の機械受注(船舶電力除く民需)は、前月比+3.4%を予想する。日銀短観の設備投資計画をみると、製造業を中心として高い設備投資意欲が示されている。感染状況が悪化する中で非製造業の動向は引き続き弱い動きとなるものの、製造業を牽引役として全体としては持ち直しの動きがみられるだろう。先行きについても、回復基調での推移が見込まれる。新規感染者数は依然として高い水準で推移しており、対面型サービス業を中心に非製造業の設備投資は弱い状況が続くことが予想されるが、好調な製造業の設備投資需要を背景に、全体としての設備投資は回復基調で推移することが見込まれる。

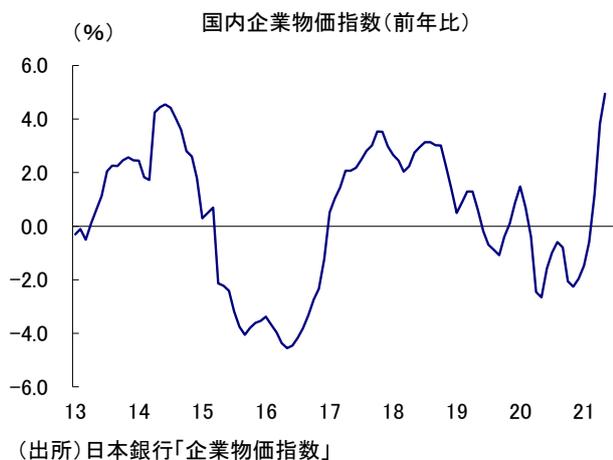
(主任エコノミスト：小池 理人)

5月第3次産業活動指数 当社予想：前月比▲1.2% 中央値：同▲0.9%

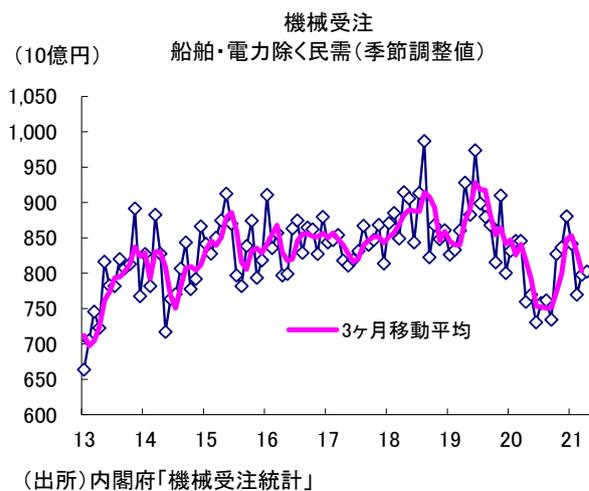
5月の第3次産業活動指数は前月比▲1.2%の下落を予想する。5月は緊急事態宣言下で厳しい営業規制を受けたことにより、生活娯楽サービスや卸売業を中心に下振れるだろう。先行きについては、6月も緊急事態宣言が継続していたことから、引き続き対面型サービス業が下押し要因となり、持ち直しは限定的なものとなるだろう。

(副主任エコノミスト：大柴 千智)

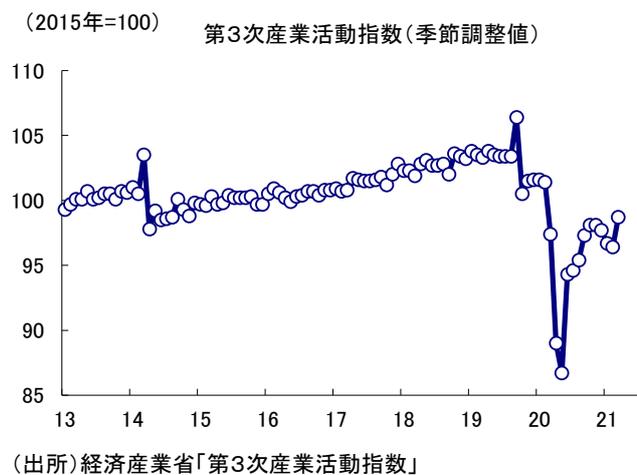
図表1



図表2



図表3



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。